

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生協法人のグループホームとして、積極的に地域との交流を図り、入居者の方々を職員・ご家族・そして地域住民が輪になって支え、お互いに成長できることを目標としている	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の定例会議での運営方針・事業所理念の確認と、日々の業務でも判断に迷ったときに立ち返って考えさせるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に対しては、家族会やびろうじゅ通信を通して理念の浸透を図り、地域の方々に対しては地域推進会議やびろうじゅ通信を通してケアへの参加を呼びかけると同時に理念の浸透を図っている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散歩時は、気軽に声をかけてくださりお話しをしてくださる方もいる。現在様々な地域ボランティアの方がケアに参加してくださっている。	○  今後は散歩や買い物時の付き添い、入居者の方は動物が好きな方が多いので、犬の散歩と一緒に行って頂いたり、本当に日常生活に入り込んで交流できる機会も作って生きたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や夏祭り等に参加した実績があり、毎月様々なボランティアの方が参加してくださっている。	○  近隣の幼稚園や小学校の子供たちとの交流が目標である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域独居老人の見守り・安否確認を町会長様から依頼を受け、行い、最終的に当ホームに入居されたという事例がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の機会を通して、日々の業務を見直し、ケアの改善を図っている。前回の外部評価で指摘を受けた定例会議の開催や申し送りの徹底も改善徹底できている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回程度ではあるが、町会代表者、民生委員、地域包括支援センター職員・ご家族・地域住人・職員総数10名程度で会議をおこなっている。地域からの積極的なケア参加の方法が話し合われ、入居者の方々の生活の活性化に生かされている。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員の方が歌体操の会に参加されたり、社会福祉協議会の事務所にも定期的に訪問し、びろうじゅの取り組みや・空き状況などを報告している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は退居された方であるが、ご家族から成年後見について相談を受け、制度の活用を検討する際、管理者自身は学ぶ機会をもったが、全職員が理解できているかは不明である。	○	学習会を通して、全職員で学ぶ機会を持つことが必要である。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する講習会等に参加しており、定例会議ではその報告も含め、具体的な事例を挙げて防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談から面談、契約、入居まで段階を踏み、利用者の方・ご家族が不安なく入居できるよう丁寧な説明に努めている。重要事項説明書や契約書は管理者から一文ずつ丁寧に説明し、必ず疑問点がないか確認し納得の上で契約書を作成するようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口になり、苦情相談に応じ、意見箱等も設けている。出された意見は地域推進会議や家族会で報告をしている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族が定期的に来所される場合は、その度に報告をおこなっている。あまり来所されないご家族には、管理者が定期的にご自宅を訪問し、報告をおこなっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口になり、苦情相談に応じ、意見箱等も設けている。出された意見は地域推進会議や家族会で報告をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員定例会議を設け、職員からの意見を議題に上げ、話し合いをおこなっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者を中心に、シフトを管理している。自由に動ける職員を一人確保することで、欠員や利用者の状態の変化にも柔軟に対応できる体勢をとっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、主任をはじめ、開所当初からあまり職員の入れ替わりはないが、入れ代わりがある場合は精神的な不安をあおらないように管理者を中心にフォローするよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半期ごとに職位に応じて自己評価・上司評価を行い、現状を見つめなおし、再び自己計画・目標を立てステップアップしていく体制ができている。法人内の医療と介護の連携を生かして、学習会等も積極的おこなわれている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全職員を対象に定期的に食事会や交流会などは行われている。	○	管理者は、まずは職員の意見を聞き、必ず一度試してみることを実践している。自分の考えや取り組みたいことがケアに反映され結果としてあらわれると大きな自信につながり、ストレスも半減される。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月、事業所報告を管理者は提出し、理事会で報告がおこなわれる。その報告を聞き、理事会から意見やアドバイスなどがもらえることもある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまで、アセスメントシートを活用し、本人の現在の状況から、グループホームで望まれる生活の形など詳細に聞き取りを行い、その後もゆっくりお話を傾聴する時間を多く持つことで、より多くの言葉を引き出し、不安の解消に努めるとともにそこで得た情報を皆で共有しケアに生かしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントシートには、ご家族がホームに望まれるケアの仕方を聞き取る欄があり、またご家族が何でも気軽に話せる関係を築くことで、ご家族の思いがケアに反映される環境を作っている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在、満室ということもあり、すぐにご入居していただけない方には、法人内外のデイサービスやショートステイの利用を検討していただくなど、少しでも介護の負担を軽減できるよう配慮している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初はご家族と一緒に泊まっていたり、居室もなじみのものを持ち込むことで自宅のお部屋とあまり環境が変わらないよう配慮するなどの工夫をしている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	手芸やお料理など職員が教えていただく機会を作り、自信の回復をはかる対応に努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からは、自宅での介護で得た知識や知恵などを教えていただき、常に職員とご家族が意見を申し合って最良の方法を検討している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会等を活用し、ご本人とご家族がゆっくり交流できる機会を確保したり、自由にご家族と外出をしたり外泊ができるよう配慮をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、昔の友人やお世話になった方から届いた手紙等をなるべくお持ちいただくようにしている。近くに来られたときは気軽に寄っていただけるように訪問しやすい環境を作っている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席位置の配慮や利用者の方同士、言葉で上手く伝えられないことなどを適切に橋渡しし、円滑な関係が結べるように配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一旦退所された方でも、管理者が中心になって自宅を訪問し、ご家族を支援したり、入居者の方を連れて散歩に行くときに一緒に訪問をしたり、付き合いを継続する工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを第一に考え、話を傾聴・受容することを職員に徹底している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントシートの活用とその後もご家族やご本人との対話の中から情報を収集し、ケアに生かしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	注意深い観察力を全職員が身につけることで、普段との変化を見逃さず気づき、すぐに対応する。今ご本人が何をのぞまれているかを常に考え、ご本人の力を引き出しながら望まれていることを提案していく。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月3名ずつ評価会議を行い、介護計画の見直しをおこなっている。ご本人やご家族との対話から得られた意見は、会議で報告し計画に反映しているが、その会議にご本人やご家族が出席できていないのが現状である。	○ 評価会議にご家族の出席も検討したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとに介護計画を見直し、状態の変化が起こればその度に計画の見直しをおこなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践内容とそれに対する入居者の状態の変化を記録し、個別介護記録・バイタルチェック表・排泄水分チェック表・管理日誌等を活用し、職員間で申し送り情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所内ではないが、生協法人の特徴を活かし法人内の医療と介護のネットワークを活用し、ご本人やご家族の要望にきめ細かく対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在、地域から歌体操や園芸、手芸、大正琴の演奏、マッサージ、お化粧のボランティアに参加してくださっている。地域推進会議では町会長様や民生委員の方が積極的ケア参加の意見交換をしてくださり、地域に根付いたグループホームになってきている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、法人外の介護保険関連の他サービス事業所と連携する場面がほとんどないが、医療関係の事業所とは本人ないではあるが様々な連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会議には必ず1名地域包括支援センターから職員の方に出席していただき、意見を求めている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	びろうじゅ行動指針と認知症ケアマニュアルを活用し、尊厳に配慮した対応を徹底している。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	びろうじゅ行動指針と認知症ケアマニュアルを活用し、声かけひとつにおいても提案の形でもっていき、最終的には入居者本人が決定できるように配慮している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	大まかな一日の流れはあるが、レクリエーション等の取り組みは、各自が自分のやりたいことをできるよう、入居者レクリエーションリストを活用し、提案という形で参加意欲を高めている。	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	服装などは本人の好みを最優先に選んでもらっている。理美容に関しては、ご家族と一緒に昔からのなじみのお店にいかれる方と、訪問理容を利用されている方に分かれる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	希望があれば、夕方や就寝前の入浴にも対応できる体制作りが必要である。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物や掃除、料理作り、洗濯物たたみなど各過程で、どこかに参加できるように役割分担をして取り組んでいる。積極的に外出の機会を持ち、車を使って遠出する機会も1ヶ月に1～2会程度持つことができている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、職員側でおこなっているのが現状である。しかし、お預かりのお金から好きなものが購入できるように、職員側からも気軽に声をかけるようにしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は、買い物や散歩に出掛けることを日課として。また2階の花壇で花や野菜を育てており、草花の世話等を楽しみにしておられる方もいる。ご家族もよく来所され、近隣まで食事に行かれたり、自由に外出できる体制になっている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会などは外出することが多く、普段あまり行けない場所に行ったり、ご家族と入居者の方がゆっくりと話ができるよい機会になっている。またそれにより横のつながりもできている。誕生日に個別に職員と入居者の方だけで本人の希望の場所に行く計画があり、4月より実施予定である。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも好きなところにかけるようにしているが、番号を押したりは職員が補助している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間などは設けず、いつ、どなたでも気軽に訪問し、職員や他の入居者とも交流できるような環境づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に係る指針を定め、ご家族に説明をするとともに職員の正しい理解を図り、尊厳に配慮したケアを徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の評価以降、日中玄関のスリーキーは外していることが多く、フロアーに必ず1名見守りの職員を置くことでトラブルも未然に防いでいる。外出を希望される時はさりげなく付き添っていくなどの配慮をしている。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	びろうじゅ行動指針に基づいて、安全かつ尊厳・プライバシーに配慮した対応を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常にあるものはありのままおいてあり、危険が予見される場合はさりげない対応で未然に障害物を除去するなどの対応に心がけている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれのマニュアルを作成し、実際に事が起こったときに冷静かつ迅速に対応できるよう日頃から準備をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの活用と日頃から緊急時の対応方法を学習する機会を持っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対応マニュアルを作成し、迅速に対応できる体制を整えている。災害時に地域の方々の協力や支援を得られるよう、町会長様を中心に近隣との交流を積極的に図っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒や事故の危険性があるが、なるべく外出機会を持って、生活にメリハリを持ってもらいたいなどはご家族に説明の上、同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル値はもちろん、表情、しぐさ、対話の様子、歩行状態等から普段との些細な変化にも気づける観察力を職員全員が身につけ、得た情報は申し送りの徹底により共有し、管理者・主任を中心に医療機関へ迅速に対応できる体制ができている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から提供される薬剤情報をもとに、基本情報は把握している。服薬は毎日毎食事のたびに袋で小分けしたものを提供し、適切に管理するとともに飲み忘れの防止を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬剤に頼る前に、繊維質のものをおやつに加えたり、飲み物を工夫したり、またなるべく散歩に出掛けたり体を動かすことで腸の運動を活発にする働きかけをおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがいや歯磨き等を促し、口腔内を清潔に保っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては同法人内の管理栄養士の作成した食事メニューに基づいて提供できている。水分量もお一人お一人の身体状況に合わせ、目標水分量を決めて、各自が飲みやすいもので提供できている。一日の水分量も記録しており、日々の変化を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルの活用や、医療機関の看護師による指導も得て、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事材料は2日に1回必ず買い物にいき新鮮なものを提供している。調理用具の衛生管理については、毎日夜間に除菌。消毒を行っている。冷蔵庫に食品を入れ入るときは必ず日付・時間を記入し24時間経過したものは廃棄処分している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に植木を植え、表札もはっきりとした大きな文字に加え、やわらかい事態でやさしい雰囲気を作り出している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下の壁の装飾や、音楽やテレビやソファの活用により、落ち着いて居心地よく当たり前の日常を送れる雰囲気作りに努めている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前等に椅子を並べて話をしたり、ボールを投げたりする様子も見受けられる。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはまず、あまり環境を変えないためにできることを考え、なじみの家具や物品をなるべく持ち込んでいただき、ホーム側からもホームでの生活の様子を写した写真などを誕生日やクリスマス行事等のプレゼントとしてお渡しし、部屋に飾るなどもしている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開け換気に行い、温度計や湿度計により、利用者各自が過ごしやすい環境の整備に努めている。温度や湿度の与える身体への影響を職員が理解し、こまめな配慮をしている。	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床材はすべりにくい素材を使用している。廊下は手すりを連続させ自立した歩行を促すのに役立っている。浴槽はリフト浴が可能である。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者各自1ヶ月目標を定め、その利用者の方にとって今何をすべきなのか職員が適切に把握し、適切な声かけや誘導で混乱や不安をなくし、その中でも手を出しすぎず見守りの姿勢で、自立を支援している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、花壇があり地域のボランティアの方にもお手伝い頂き、お花や野菜を育てている。天気のよい日は2階に上がり、植物の世話をすることを楽しみにしている。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方に対する声かけの仕方や接し方は、法人内でも模範となるべく行動指針やマニュアルの活用により全職員に徹底している。また、楽しみがあり、メリハリのあ一日を過ごしていただく為に、レクリエーション活動には力を入れており、御本人に適した取り組みを、提案している。地域や御家族の中からもボランティアで、体操や手芸等を教えに来ていただいております、生協らしいグループホームとして地域との交流の輪がどんどん広がっている。